



図書だより

令和年2年6月3日発行

徳之島高校図書室

第3号

梅雨にゆっくり読書のすず



6月といえば、「水無月」「梅雨」という言葉が浮かんできませんか？

「梅雨」には梅雨に関する様々な言葉があります。

例えば、「梅雨闇」・・・厚い雲におおわれ薄暗い梅雨のころの天気

「送り梅雨」・・・梅雨があがるころの大雨や雷鳴を伴う雨

「梅雨籠り」・・・人々が外出を控え家に閉じこもりがちになる時のこと

いよいよ梅雨本番。徳之島は本土より梅雨入りが1ヶ月ほど早いです。雨の時期は外に出るのもおっくうになります。そんな時こそ、読書で気分転換！図書室には、雨を舞台にした本が多数あります。読書でゆったり梅雨籠り・・・。

『死神の精度』伊坂 幸太郎 (913・イ)
7日間でその人間の生死を見極める“死神”とその対象者たちの悲喜こもごもをさわやかに描く6つの人生の物語。どこかクールで奇妙な死神に、あなたもとりこになるかもしれない。

『雨の名前』高橋順子 (451・タ)
雨の名称を集めた歳時記。季節ごとに雨の名称は違い、例えば「青時雨」「雨濯」など。雨にちなんだ俳句やエッセイを自分で作ってみるのも楽しいかも・・・。

『蒼空時雨』綾崎 隼 (913・ア)

偶然の「雨宿り」から始まる、切ないラブ・ストーリー。ある夜、舞原零央はアパートの前で倒れていた女、譲原紗矢を助ける。帰る場所がないと語る彼女は居候を始め、次第に猜疑心に満ちた零央の心を解いていった。やがて零央が紗矢に惹かれ始めた頃、彼女は黙っていた秘密を語り始める。

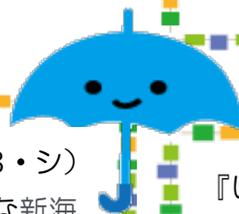
『小説 言の葉の庭』新海誠 (913・シ)

映画『君の名は。』『天気の子』で有名な新海誠監督がアニメーション映画を自ら小説化。雨の朝、静かな庭で出会ったふたりは、迷いながらも前に進もうとする…。雨と緑に彩られた一夏を描く。

『いま、会いにゆきます』市川拓司 (913・イ)
2004年竹内結子・中村獅童主演で映画化されたファンタジー恋愛小説。1年前に最愛の妻である澯を亡くし、1人息子の佑司と慎ましく過ごしていた巧。それから1年後、雨の季節に2人の前に死んだはずの澯が現れるが・・・。

まだまだあります

雨本、図書室にて展示中です



避難訓練



先月の27日に避難訓練がありました。徳之島でも最近地震が多い気がします。もし、新型コロナウイルス感染下において災害が起きたら・・・と考えるだけで恐ろしいです。そんな時に私たちはどのような行動をとればいいのでしょうか？

5月27日付の南日本新聞に、新型コロナ下での災害時の避難について書かれた記事がありますので、今一度避難時の持ち物など確認するきっかけになればと思います。



南日本新聞 5月27日

図書室には新聞があります。南日本新聞と南海日日新聞です。コラム等、必要な記事もスクラップしています。世界や日本の様々な状況を知って日々の生活に役立てましょう。毎日、新聞を読む習慣を身につけるのも良いですね。図書室内のみ閲覧できます。

南日本新聞 5月27日

雨本特集

